

第1回 第3次豊川市食育推進計画策定委員会 主な意見一覧

(1) 第2次豊川市食育推進計画の評価（アンケート結果）について

発言内容
・食育は知識と意識と関心が重要であり、それらを高める施策が必要だと思う。
・食育という言葉の認知度や関心のある人の割合は高いが、実際の取組内容が周知されていない。イベントの開催だけでなく、市民の自発的な行動を促す取組が大切だと思う。
・保育園や学校で食育につながる啓発活動をしている。そうした取組を継続的に行っていくことが大事であると思う。また、数値は低下しているが大きな動きはないと感じる。我々としても活動すべきことは、まだあると思う。
・食育という言葉は知っていたが、取組内容は知らなかった。内容まで周知しなければいけないと思った。
・孤食対策の取組をしているが、うまくいっていない。アンケート結果から、もう少し考えるべきことはあるかもしれないと思った。
・共働きが多いため、食育に興味を持っていても、時間や知る機会がない。特に若い世代は、イベントを通して知ることでもできるが、継続的に実践するのは難しい。
・保護者は共働きが多く、食育に関心があっても時間がない。保育園では色々なものの栽培や給食における地元の農産物の使用と保護者に対する紹介を行っている。そうした取組を通して、子どもたちは食物の栄養素や育成について子どもたちなりに考えている。それが食育であると思っている。 ・朝食を食べてこない子どもがいるが、保護者には朝食の大切さを伝えている。園としてできることをやっていきたいと思う。また、子どもを通して保護者にも伝えていきたいと思う。
・取組の多くが行政主導となっており、民間主導の取組もあって良いと思う。食品衛生協会では年に数回、小学校で料理教室と手洗い教室を行っている。初めに子どもたちに普段通りに手洗いをしてもらい、よく洗い切れていないことを確認して、改めて手洗いマイスターという資格を持つ会員が洗い方を指導している。手洗い教室の後には蒸し饅頭を子どもたちと作っている。 ・食中毒予防に関するアンケートを行い、回答者には食品を配布している。1,000名ほどの方にご回答いただいたことから、食育への関心が伺える。 ・地元の農産物だけでは食べるものがなくなってしまうのが現実であると思うので、地元の農産物の地産地消にこだわる必要はないと思う。
・口腔の健康は体の健康とも関わりがある。「食べること」は「生きる」ための基本であり、食育は社会的にも様々な面に関わっている。そのため、そうした多くの要因に混同して、目的等が不明瞭なものとなってしまうことが予想される。色々な因子に目を向けたくなるが、ある程度切り口を絞って取り組むことが肝要であると思う。
・専業農家として全体的に数値が低下していることは残念だと思う。核家族化などの影響もあると思う。 ・学校給食では地元産の旬のものを食べていただきたい。

(2) 第3次豊川市食育推進計画（骨子案）について

発言内容
・「子ども」をキーワードとして、学校のイベント等とリンクさせると、子どもから保護者や家庭全体へと話題が広がると思われる。したがって、一案として対象をある程度絞って計画を推進することも効率的に行えるものと考えられる。 ・さらに将来的には、高齢者や労働者（被雇用者）、外国人などの対象にも考慮して段階的に展開することも、目的遂行には効果的とも推測される。
・子どもは食育関係のイベントがあると興味を示すが、その場限りとなることが多い。例えば、高齢者の夫婦のみで食事を摂る機会が増えていると感じるが、高齢の夫婦と子どもたちを結び付け、一緒に食事をする事で食について知る機会と交流の機会を持つことができるのではないかと。子どもや高齢者などを分けずに、一体的に考えると良いと思う。また、食育は少しのことで簡単に取り入れることができると示していただけると良いと思う。
・第2次計画策定時にはいなり寿司を作れる人の割合を指標にするという案もあった。高齢者等との交流を通して、市民が自分なりのいなり寿司を作れるようにするという話があったが、このような形は伝統料理をつなげていくことになると思う。
・舌の記憶は本来、家庭でつけることが望ましいが、保育園の給食やおやつも大事な役割を果たしている。食育は子どもたちの育ちにとって重要であるので、保護者も含めて子どもたちに舌の記憶や食事の大切さを無意識に生活の中で感じられるようにしたいと思う。
・会議の場に出ると様々な団体が活動していることが理解できるが、そうした団体や活動に関する情報へのアクセスを行政が確保することが重要であると思う。
・工場見学などのイベントを市が主催するのではなく、他の団体が主催する同様の取組の情報発信だけをするのはどうか。市主催では色々と準備が大変であるため、その方が効果的に食育が進むのではないかと。
・数値が減少したのは、食に対する社会の在り方が変わってきたためではないか。そのように捉えれば、あまり数値が下がらなかったと考えることもできるが、目標値は達成すべきものであるため、行政は新たな施策を考えることが必要である。施策の中身については重点項目を見つける方が良いと思う。 ・施策の総括をしっかりとすることが重要である。 ・他のことと関連させて子どもが学んでいくことが重要である。また、子どもだけでなく、周りの環境から食育を考えることにつなげることが重要である。 ・行政だけでなく、市民が食の良さを認識して推進することが望ましい。市民の中に、食育は健康につながるという意識があるが、実践のために何をすべきかが分かりづらい。自分に適した食事や豊川市の環境を理解できるものがあると良い。 ・食育に関する取組内容が十分に伝わっていないことは残念である。情報の発信方法を改善する必要があるのではないかと。 食は全ての人にとって必要なものであるため、自分にとって重要なことが食であると認識されると、食に関心のある人達も増えていくのではないかと。全庁的に食の重要性や豊川市における食の魅力についての取組に力を入れていただき、食は基本であることをPRしていただきたいと思う。